

## 地域医療を支えろ

「大学の医局を空にしてもいいから地域医療を支えろ」。弘前大学大学院医学研究科の消化器血液内科学講座教授に就任した時に声をかけてくれたのが、講座の先輩、奈良秀八洲さんだ。新米として青森労災病院に配属された時の上司で、医療は患者のためにあるという基本を学んだ。地域の医師不足が深刻になったころ、医局の医師を減らし各地に派遣して頑張れたのもこの言葉があったからだ。

風貌はおっかないが、患者さんに真摯に向き合い慕われた。先生は国内で初めてA型肝炎ウイルスの撮影に成功。ウイルスは発症者の便にはほとんど存在せず無症状の人に提供してもらった必要がある。多くの人が協力してくれた。後輩の面倒見もよく、週に3、4回は晩ご飯に誘われ相談にのってもらった。夜勤後の看護師も合流し、帰宅が午前3時になることも。先生の元には各地から症例が寄せられいくつもの研究に結実した。

私が学長に就任したのは新型コロナウイルス感染症拡大が始まったころ。「学生中心の大学に」と躊躇なく決断し、他大と連携してワクチン接種体制をつくったのも先生の教えからだ。黒石市国保黒石病院院長を最後に引退された後も年に1回はお会いしていた。コロナが収束してお酒を酌み交わせることを願っている。(いづた・しんやぐー＝弘前大学学長)